

「今年の思い出」 利尻町立利尻中学校3年 佐々木 碧斗

中学校に入ってからもう二年半がたち卒業の季節がもうすぐに迫ってきた。中学校生活は小学校生活と違って、とても短いように感じたが小学校生活よりも中身の濃いものになったと思う。その濃い思い出の中で特に輝いているのが3年生のころだろう。1, 2年と過ごしてきて、ついになった最高学年。なったばかりは自覚がなかったが、体育祭のころからしっかりと自覚を持ち始めたと思う。体育祭のリーダーを決めるとき自分はまた関わらないつもりでいたが、最後までいやってみるかという思いで立候補した。ただリーダーになって初日の練習からもうやりたくないと思った。赤組の3年生で考えた組み分けをもって来るのを忘れて先生に怒られたり、自分がメモに使っていた紙を急遽使うことになり、字が汚いことを1, 2年にばれたりさんざんだった。自分の中で最悪のスタートを切った体育祭練習。自分のやっていることが正しいことか不安になりながら、3年生の仲間と1, 2年生の元気に支えられ、メンタルブレイクすることなく終えることができた。練習が終わったとき褒められて報われた気がしたが、もうしばらくは人の前に立つ役職に立候補しないと心に決めた。

夏休みが終わると心待ちにしていた修学旅行が来た。修学旅行 1 日目飛行機から降りてバスに乗り、エスコンに向かう途中バスガイドさんがバス内を盛り上げてくれたのでエスコンにつくまで退屈せずに行けた。エスコンでは最高に面白い試合を、最高においしいご飯を食べながら見た。2 日目には最も楽しみにしていた自主研修があった。えいと、日向、きすけ、あきとともにラウンドワンにいてカラオケで熱唱したり、ボーリングで対決したりと全力で楽しんだ。ラウンドワンの後のアニメイトや AOA O 札幌など、一日中テンションマックスで過ごした。3 日目にはルスツに行った。大量の絶叫マシンに乗った。途中、絶叫マシンの影響で気分が悪くなってしまったりもした。午後からは川下りをした。思ったよりも激しく、ガイドのネパール人も面白かったが、川に魚がいなく少し残念だった。最終日は小樽に行って沢山のお土産を買った。バスガイドとのお別れの手紙はとても笑えるものだった。家に帰った後は思い出話が止まらなかった。学校祭や中体連などまだまだ思い出がある。

僕はこれ書き改めて自分が最高の仲間と過ごせたのだと実感している。あと少ししかない13人の中学校生活を楽しんでいこうと思う。